

採血を受けられる患者さまへ

長岡赤十字病院

「採血」は病気の診断や病状を把握するために必要な医療行為です。
基本的には安全性の高い手技ですが、まれに合併症が起きることがあります。
当院の採血室では、採血の危険性よりも得られる情報が重要であると医師が判断し指示した場合に、
国家資格を有する臨床検査技師が十分な管理のもと細心の注意を払って採血を行っております。
安全で確実な採血のため、「採血」の必要性・危険性をご理解いただき、以下の事項について皆さまの
ご協力をお願いしております。

ご本人確認にご協力ください

「採血間違い防止」のためご本人あるいは付き添いの方にお名前と生年月日をうかがっております。

採血部位について

通常は両腕いずれかの肘（ひじ）の血管から行いますが、血管の状態によっては前腕や手の甲で
お願いすることがあります。ご希望のある方は担当者にご相談ください。

採血量と回数について

検査に必要な血液量を1回で採血できるよう努めておりますが、採血針を刺しても採血できない
場合や、必要な採血量が1回で採取できない場合があります。その際には部位を変えて採血させて
いただくことをご了承ください。

次に該当する方はお知らせください

- 採血中や採血後にご気分が悪くなったことのある方
- 消毒薬（アルコールなど）や手袋（ラテックスなど）にアレルギーのある方
- 血液透析中の方、シャントのため血管を確保している方
- 乳房切除術を受けられた方
- 血液を固まりにくくするお薬（抗凝固薬・抗血小板薬）を服用されている方
ワルファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、プラビックスなど
- その他、採血についてご希望や不安のある方

強い痛みやしびれを感じたらお知らせください

採血中あるいは採血後に指先まで電気が走るようなしびれや我慢できない強い痛みを感じた場合、
すぐにお知らせください。

採血後はしっかり押さえてください

採血後は5分以上もまずしっかり押さえてください。押さえ方が不十分だったり、採血側の腕で
荷物を持つと血が止まりにくく、採血部位が青くなることがありますのでご注意ください。

採血に伴い起こりうる症状について

採血は細心の注意を払って行います。基本的には安全で合併症を起こすことは少なく、軽症の場合がほとんどですが、まれに次のような症状が起こることがあります。その際には最善の処置を行いますが、診療に要した医療費は通常の保険診療の適用となりますことをご了承ください。

■ 皮下血腫・皮下出血（青あざ）

採血後、止血しにくかったり、内出血により紫色になったり、腫れる場合があります。十分な圧迫で（押さえる）ある程度防ぐことができますので、もまずに5分ほどしっかりと押さえて止血してください。血が止まりにくい方は十分な止血をしますのでお知らせください。

■ アレルギー（過敏症）

採血時のアルコール消毒やスタッフの手袋（ゴム・ラテックス）、駆血帯（ゴム）、絆創膏などでかゆくなったりかぶれることがあります。皮膚の弱い方、アレルギーのある方はお知らせください。

■ 神経損傷

採血後も手や指に広がる痛みやしびれが持続することがあります。約3万～10万回の採血に1回程度の頻度で起こり、多くは数週間ほど、長くても数ヶ月程度で回復するとされています。症状が強い方、持続している方は採血担当者、もしくは診療科看護師、担当医師にお知らせください。

■ 血管迷走神経反射

採血時や採血前後に神経が興奮し急激に血圧が下がることによってめまい、気分不良、意識消失などを引き起こすことがあります。過去の採血時に気分が悪くなったことのある方はお知らせください。

ご不明な点について

- こちらのご説明をご覧になってご不明な点、心配なことがありましたら担当技師、または、診療科看護師、担当医におたずねください。
- 詳しい検査項目の内容や結果の解釈については担当医におたずねください。
- 主要検査項目について基準範囲の表を15番受付にてご用意しております。どうぞご利用ください。

検査室での採血についてのお問い合わせはこちらまで
長岡赤十字病院 医療技術部 検査技術課 採血室
電話 0258-28-3600

